

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	いわき市	
施 設 名	いわき芸術文化交流館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	27,338	(千円)
公 演 事 業	14,334	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	13,004	(千円)

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第5回いわき文化春祭り	2019年5月18日・ 5月19日	出演：いわき市文化協会 ほか	目標値	10,000人
		大ホールほか		実績値	11,000人
2	こどもの劇場2019・夏 新国立劇場ダンス 森山開次「NINJA」	2019年6月15日	演出・振付・アートディレクション・ 出演：森山開次 出演：浅沼圭、中村里彩 ほか	目標値	294人
		中劇場		実績値	472人
3	小さなお客さまのための コンサート	2019年7月20日	出演：高橋アキ、柳家花緑	目標値	264人
		小劇場		実績値	219人
4	いわきアリオス・まちなか 連携プロジェクト いわき街なかコンサート	2019年10月5日・ 10月6日	出演：いわき市内を中心に市内外か ら参加するアマチュアバン ド ほか	目標値	1,000人
		中劇場		実績値	2,650人
5	アリオス・ ワンコインコンサート	2020年1月26日	出演：佐藤俊介、鈴木秀美、スーア ン・チャイ	目標値	380人
		文化センター大ホール		実績値	441人
6	いわき市文化施設連携事業	2019年4月13日～ 2020年2月27日	出演：蛭川実花、後藤繁雄、カンパ ニーデラシネラ、弦楽四重奏 団ヴィルタス・クワルテット	目標値	560人
		市内文化施設		実績値	769人
7	第23回・第24回 たんけんアリオス	2019年7月28日・ 12月21日・22日	演出：大信ペリカン、 カタヨセヒロシ 出演：佐藤隆太、ロクディム ほか	目標値	120人
		中劇場		実績値	191人
8	おでかけアリオス	2019年5月10日～ 12月7日	出演：ヴィルタス・クワルテット、 伶楽舎 ほか	目標値	2,000人
		市内小中学校等		実績値	3,029人
9	ダンス採集	2019年5月10日～ 2月19日	講師：んまつーポス	目標値	400人
		常磐地区、 市内小学校ほか		実績値	120人
10	リージョナル・シアター 2019市民とつくる演劇 ①いわきアリオス演劇部 ②劇団ごきげんよう	①2020年3月8日 ②2020年2月2日	講師・演出：①三浦直之、大信ペリ カン ②永山智行 出演：①亀島一徳、佐藤隆太 ほか ②市民12名	目標値	387人
		中劇場ほか		実績値	150人
11	“ふたり“がつくる世界に 触れる vol.3	中止	新型コロナウイルス感染症の影響に より中止	目標値	200人
		-		実績値	中止
12	アリオス・ キッズルームシアター	2019年5月10日～ 2020年2月18日	出演：古家優里、長谷川風立子、 木田麻貴、常光今日子 ほか	目標値	80人
		キッズルーム		実績値	220人
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

地域における劇場・音楽堂は、文化芸術が持つ人の心を豊かにし、他者との相違点を認め合うことができる力を信じ、本市で生活を送る市民に対し、誰もが平等に文化芸術に触れられる場を創出し、生きる力を育み、本市で生活を送る嬉しさや喜び、そして誇りが持てるよう、市民の生活支援を担う公的施設である。特に、少子化が進む時代の中で、児童虐待、子どもの貧困、いじめ、不登校など、子どもを取り巻く地域社会の在り方が問われている。地域の劇場・音楽堂として、「地域で子どもを育てる環境の充実」を目指し、具体的には「子どもの文化芸術体験活動」を広く、深く、豊富に提供することを重視した事業展開を行っていく。このミッションを達成するために当館では、市民と積み重ねた検討の経過を踏まえ、ハード・ソフトの両面に関わるコンセプトを定めている。

1. 気軽に集い、ふれあい、楽しめるコミュニティであること
2. 自分を磨き、新たな価値を生み出す創造的活動拠点であること
3. みずみずしい文化芸術に触れ、地域への誇りをともに育む場であること
4. まちとつながり、まちを感じる賑わいの空間であること
5. 地域における公共劇場の新しいスタンダードであること

以上のコンセプトを柱に、市民が世界の窓に触れるような鑑賞公演だけでなく、当館まで様々な理由で足を運ばない方のところへ実演芸術家とともに出かけコンサートやワークショップを開催するアウトリーチ事業や地域を題材にした演劇作品を市民と創出する事業の実施。街なかとの連携事業の実施、市民参画で子どもを対象にした当館を子どもの遊び場にする事業を毎月実施するなど、様々な実演芸術を用いて、概ね市民生活の支えとなる事業を実施することができた。

しかし、台風と新型コロナウイルスの感染拡大防止のために中止した事業もあり、全ての事業を予定通り実施することはできなかった。事業戦略を踏まえて年度内の鑑賞事業、普及・啓発事業の実施数を決定していたため、実施できなかった事業の影響から例年よりも目標達成率の低い項目が目立つ結果となった。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

・地域コミュニティの変化

中山間地域での人口減少は急速に進み、当館の開館以降の11年間で、3地区（田人、三和、好間）で合計14の小・中学校が統廃合されている。その影響により、地域コミュニティの変化はさまざまな形で加速しながら進んでいる。特に中山間地域における小・中学校の存在は、地区のコミュニティ維持拠点的な意味合いも大きく、統廃合により学校がなくなった集落への配慮は地区全体の課題となっている。一方、震災と原発事故により予想外の影響を受けたのは、むしろ都市部および沿岸部のコミュニティである。原発事故の避難指定自治体からの避難者の移住による人口増加、とりわけ新興住宅地を有する地域では、世帯数の増加が顕著である。沿岸部の地域は津波被災によって居住エリアに変化が生じ、またそのことによって世帯構成人数が減少するなどしている。

・地域コミュニティが抱える課題に起因するニーズ

上記のような地域課題に対して、文化芸術の分野からどのようなことができるかを、震災後10年目を迎える現在の最重要課題ととらえ、アウトリーチ事業「おでかけアリオス」を中心にさまざまな事業を展開している。それは単なる芸術普及啓発の範疇を超えることだけでなく、本市当局のさまざまな部署との連携（教育委員会・保健福祉担当分野・市民生活担当分野・経済活動担当分野・地域振興担当部局 他）地域住民らによるコミュニティ（集落ごとの自治会・青年会・青年団）への綿密な聞き取りからスタートさせ、ニーズを押し量った上での事業展開を実践している。

ステークホルダーたる市民、市民と一口に言っても各々の人生のステージは異なり、置かれている環境も異なるわけだが、市民を第一に考え、様々なアプローチを当館は設立当初から今日に至るまで続けている。これら言うならば“当館外へ”に向けての活動により、築き上げた信頼と人のネットワークは開館から11年が経過した当館にとって、何にも代えがたい財産であり、強みとなっているはずである。コミュニティへアプローチする担当部署、当館と人、人と人とのつながりを醸成する広報専門部署の設置と、そのミッションに応えるべく配置されている専門スタッフ、そして何よりもあたたかいまなざしを開館以来向けてくださっている、市民の皆さんの当館に対するご理解・ご協力があって、現在の劇場・音楽堂運営が成り立っている。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

平成27年度から平成29年度の3年間の事業アンケートの実績をもとに目標値を設定。

【平成27年度から平成29年度の事業アンケート集計表】

どの項目においても満足度は90%近くを得ている。その中でも「大変満足している」の数値を指標とし、目標値を設定する。

平成27年度合計(平均)				平成28年度合計(平均)				平成29年度合計(平均)			
	大変満足している	満足している	満足度		大変満足している	満足している	満足度		大変満足している	満足している	満足度
1 公演内容の満足度	76.1	22.7	98.8	1 公演内容の満足度	77.5	21.2	98.7	1 公演内容の満足度	70.3	18.1	88.4
2 情報の入手、チケットの予約・購入のしやすさ	49.0	43.8	92.8	2 情報の入手、チケットの予約・購入のしやすさ	50.5	41.9	92.4	2 情報の入手、チケットの予約・購入のしやすさ	39.5	45.3	84.8
3 年間ラインナップ	32.2	54.6	86.8	3 年間ラインナップ	31.4	56.6	88.0	3 年間ラインナップ	23.4	48.7	72.0
4 総合的ないきいきアリオスに対する満足度	43.0	53.4	96.4	4 総合的ないきいきアリオスに対する満足度	39.9	55.9	95.8	4 総合的ないきいきアリオスに対する満足度	33.3	51.6	84.9

◎事業の目標を以下の通り設定

1. 公演内容の「大変満足している」の目標値を75%とする
2. 公演情報の入手、チケット予約・購入のしやすさの「大変満足している」の目標値を50%とする
3. 公演の年間ラインナップの「大変満足している」の目標値を35%とする
4. 総合的な当館の「大変満足している」の目標値を40%とする。

達成状況は以下の通りである。

1. 公演内容の「大変満足している」の目標値を75%とする
→結果：68.8% 達成率：91.7%
2. 公演情報の入手、チケット予約・購入のしやすさの「大変満足している」の目標値を50%とする
→結果：47.3% 達成率：94.6%
3. 公演の年間ラインナップの「大変満足している」の目標値を35%とする
→結果：25.9% 達成率：74.0%
4. 総合的な当館の「大変満足している」の目標値を40%とする。
→結果：38.8% 達成率：97.0%

◎アウトリーチ事業やワークショップ等の事業の目標を以下の通り設定

1. 実施内容の「とてもよかった」の目標値を80%とする
2. また参加したい（体験したい）かの「とても参加したい」の目標値を80%とする

達成状況は以下の通りである。

【アウトリーチ事業やワークショップ等の事業】の目標を以下2つとする。

1. 実施内容の「とてもよかった」の目標値を80%とする
→結果：81.5% 達成率：101.9%
2. また参加したい（体験したい）かの「とても参加したい」の目標値を80%とする
→結果：53.7% 達成率：67.1%

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【鑑賞事業について】

実演芸術のジャンルによって仕込みやリハーサルにかかる期間は異なるが、どの事業も当初から大きな変更なく実施できていた。実演芸術の中でも演劇は劇場が変わると仕込みの内容や、演出が変更になる場合もあるため、音楽等の事業に比べて、期間を長く設けている。

それにより、時間に追われて作業を進めることなく、市民に最高の状態で実演芸術を届けるため、実演芸術家がしっかりと作品に向き合う時間を確保することができている。

【普及啓発事業について】

市民が参加する事業においては、どれだけ意義のある事業であっても、参加者が集まらなければ意味がなく、参加者にとって適正な期間や時期を見定める必要がある。

例えば高校生なら学校の年間スケジュールや、部活動の大会日程を事前に調べて日程を組む等、対象者が参加しやすい時間の設定や安価な料金設定をするなど、実演芸術が自身の日常生活の一部として浸透していくことを目指し実施している。

【事業費について】

令和元年度の予算策定時における収支目標が公演事業は73.7%、人材育成事業は26.1%、普及啓発事業は29.8%であったが、最終的な決算では公演事業が71.6%、人材養成事業が22.0%、普及啓発事業が33.9%と、ほぼ目標に近い数字となっている。

公演事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により1公演が事業中止となったことで、最終的には収支目標に少し届かなかったが、他の4公演では予算時を上回る収支となった。

収支のバランスだけでなく、各事業における事業費は、期間や実演芸術家への報酬を事前にしっかりと練り込むことで、余計な支出、あるいは不足がないように、適切な設計ができている。

以上のことから、事業期間や事業費は適切に設定されており、かつ、当初の計画通りに実施できたと考えられる。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当館は開館以来、事業（ソフト面）や施設（ハード面）に対し多くの賞を受賞している。

【第33回有馬賞】

平成25年には、国内最高峰の実演芸術団体であるNHK交響楽団より、「第33回有馬賞」を受賞した。当館のアウトリーチ事業「おでかけアリオス」等が、震災復興への貢献や、音楽の普及に寄与してきたことが評価され、開館当初から業務提携を結び、東北唯一の定期演奏会を実施してきたことで、NHK交響楽団の活動に貢献したことが、受賞の理由となっている。

【地域創造大賞（総務大臣賞）】

平成26年には、文化芸術の振興による創造性豊かな地域づくりの貢献が評価され、(財)地域造像より「地域創造大賞（総務大臣賞）」を受賞。

【文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）】

平成26年には、行政が住民、企業や大学と協力し、地域の特色を活かした文化芸術活動によって、地域振興を図り、顕著な成果をあげたとして、「文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）」を受賞。

【キッズデザイン賞2017】

平成29年には、宮崎県を拠点に活動する実演芸術団体「んまつーポス」との協働により、子どもの豊かな感性や創造性に寄与する活動等で成果をあげたとして、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会より「キッズデザイン賞2017」を受賞した。

これらの受賞歴が示すように、当館が地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮した事業を展開していることを、対外的にも評価されてきた。それは開館から今まで、様々な事業を高い水準で実施してきたことが要因としてあげられる。

鑑賞事業においては、常に芸術性の高さ、内容の独創性を念頭に置いて実演芸術団体を選び、市民の「世界への窓」たることを目指してきた。

一方で、アウトリーチやワークショップ、市民と一緒に作り上げる創造事業では、常に市民の目線に立ち、一方的に文化芸術を押し付けるのではなく、本市で育まれてきた人や土地を活かした事業を目指してきた。

文化芸術における最高峰の体験と、本市に根差した文化芸術の育成を同時に行うことで、地域の文化拠点としての役割を存分に発揮することができたと考えている。

		表彰名	表彰者	受賞の理由	受賞者
ソフト面における受賞	①	第33回有馬賞	NHK交響楽団	おでかけアリオス等による震災復興への貢献。音楽の普及、NHK交響楽団への貢献。	いわき市
		受賞：平成25年10月5日			
	②	地域創造大賞：総務大臣賞	(財)地域創造	文化芸術の振興による創造性豊かな地域づくりの貢献。	いわき市
		受賞：平成26年1月17日			
③	文化庁長官表彰	文化庁	行政が住民、企業や大学と協力し、地域の特色を活かした文化芸術活動によって、地域振興を図り、顕著な成果をあげた。	いわき市 ※本庁舎ロビーに展示	
	(文化芸術創造都市部門)				
④	キッズデザイン賞2017	特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会	子供の豊かな感性や創造性に寄与する活動等を行い、成果をあげた。	いわき芸術文化交流館 宮崎大学高橋らみ子研究室 んまつーポス	
		表彰名	賞の内容		受賞者
【受賞一覧】 ハード面における受賞	⑤	照明普及賞	照明学会により優秀な照明施設に授与される賞		いわき市 佐藤尚巳 湯山康樹
		受賞：平成21年5月21日			
	⑥	日本建築家協会優秀建築選	優秀な建築作品に授与される賞		佐藤尚巳建築研究所 清水建設株式会社
		受賞：平成21年度			
	⑦	国際建築賞 2010	世界各地の最先端の優れた建築デザインに贈られる賞で、世界的に最も名誉ある賞のひとつ		佐藤尚巳建築研究所 清水建設株式会社
		受賞：平成22年5月			
	⑧	劇場技術者協会 建築賞優秀建築賞：平成22年7月	アメリカの劇場技術者協会が世界規模で優れた劇場施設に贈る賞。(国内3施設目)		いわき市
⑨	北米照明学会照明賞優秀賞	芸術的、科学的見地から優れた照明デザインに与えられる、世界的に権威のある賞のひとつ		佐藤尚巳 湯山康樹	
	受賞：平成22年7月5日				
⑩	第51回 BCS賞	創立100周年を迎える「建築業協会」が、毎年我が国の優れた建築物に贈る賞。国内の建築関係者からも毎回大きな注目を集める権威ある賞		建築主：いわき市 設計：佐藤尚巳建築研究所・他 施工：清水建設株式会社・他	
	受賞：平成22年11月15日				
⑪	第31回福島県建築文化賞 優秀賞 受賞：平成26年度	福島県において、地域の周辺環境に調和し、かつ景観上優れている建築等に贈られる賞		いわき市	

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

当館では毎年、市民による様々なジャンルの実演芸術団体が集ういわき市文化協会との協働で、「いわき文化春祭り」を実施している。平成31年度は115団体の約1,300人が日頃の文化芸術活動の成果を持ち寄り、2日間で約11,000人の観客を楽しませた。これは当館大ホールでの実演芸術の発表の場だけでなく、館内の共有スペースでの実演芸術以外の展示や、当館に隣接する平中央公園での出店や野外ステージ等、あらゆる市民が参加できる事業である。

少子化により、地域の文化芸術を担う子どもの数が減り、市民による文化芸術団体は後継者不足が深刻化している。また、自分たちが日々励む文化芸術の成果を多くの方に観ていただきたいと考えてはいるが、公演や発表会の準備、当日の運営等も、高齢化が進む文化芸術団体では年々厳しくなっている現状がある。

それらの課題を当館が地域の文化拠点として解決するため、若い世代に文化芸術の素晴らしさを気軽に体験してもらい、かつ、当館のスタッフが全面的にサポートすることで、市民が日頃の文化芸術活動を自由に発表できる場として、「いわき文化春祭り」は市民から大きな支持を得ている。

また、子どもや子育て世代が集う「アリオス・キッズルームシアター」では、市民のアイディアや能力を活かした事業を継続的に実施することで、そのノウハウを蓄積している。当館を子どもたちの「新しい広場」にするため、当館の「キッズルーム」を利用した、子どもとご家族と一緒に楽しめる事業であるが、実演芸術家の演奏に市民の朗読を加えたり、保育士の資格を持つ市民に子どもたちの見守りを依頼したりする等、実演芸術家と市民が力を合わせ、独創性のあるプログラムを提供している。

「たんけんアリオス」や「いわきアリオス演劇部」といった事業では、小学生から高校生までの子どもたちに舞台の裏側や、創作の過程を体験してもらうことで、舞台芸術に関わる人材の育成に取り組んでいる。参加者には、当館のスタッフが持つ技術や知識を分かりやすく伝授し、またプロの実演芸術家のノウハウを活かしながら提供することで、毎年参加者が定員に達する当館の大事な事業の1つとなっている。

公演事業の『DULL-COLORED POP vol. 20 福島三部作・第二部「1986年：メビウスの輪」第三部「2011年：語られたがる言葉たち』』においては、本市を含む福島県を舞台にした演劇であり、第二部は本市が首都圏に先駆けて初演、第三部は大千秋楽だったこともあり、市外からも多くの観客が訪れた。終演後には作・演出の谷賢一氏が舞台上にあがり、観客とディスカッションする場を設けたことで、作品のことだけでなく市内外の人々が実演芸術を通じて福島の実況や人間、社会のことを考え、多くの人々と分かち合うことができ、演劇の真価をいかに発揮できたことが、もっとも大きな成果と考えられる。

また、公演に関連して谷賢一氏と平田オリザ氏、柳美里氏によるトーク企画の実施と、市民対象の演劇ワークショップを開催することで、実演芸術家自身のことを知ってもらい、作品をより深い視点で鑑賞する機会を設けるなど当館独自の内容で事業を実施したことで、より地域における文化芸術の振興を図ることができた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

【運営方式について】

当館は開館以来、事業運営を「市の直営」、施設維持管理を「PFI事業者による管理」とする併用方式を用いている。

【雇用について】

① 事業の公共性の視点

公の施設として、公共性・公平性の視点に立った利用者サービスを円滑に進めるとともに、市の直営方式に固有の庶務・財務事務を適正に処理し、専門スタッフを中心とした自主企画事業の推進をサポートするため、市の正規職員（11名、うち専従10名）を配置。

② 事業展開の有効性の視点

劇場・音楽堂運営、舞台芸術に関しては、特殊かつ高度な技術を要するものであることから、各分野において専門的かつ高度な知識・経験を有する優れたスタッフを、全国から招聘・募集し、嘱託職員（33名）を雇用。

これらの運営および雇用方式により、以下のメリットが得られていると考えている。

- ◇専門分野におけるスタッフを嘱託職員で雇用することで、市の正規職員のような人事異動が無いことから専門性の継承が確保される
- ◇嘱託職員として雇用した専門スタッフは単年度契約更新を基本とし、最大5カ年の雇用。以降の更新は人事評価を行った上で決定しており、職員の質の維持が可能
- ◇嘱託職員の退職に伴う補充採用に当たっては、地元在住者の採用を選考の一視点としており、地元の人材育成を志向している
- ◇市の正規職員の配置により、市特有の財務事務、庶務事務に対応出来るとともに、関係部署との円滑な連絡調整が可能
- ◇舞台設備の補充や設備機器の補修は、PFI事業者との連携体制により、即時の対応を可能としている
- ◇当館の建設準備時代から築いてきた市民や市民団体とのネットワークを有効に引き継ぐことが出来ている

なお、地方自治法及び地方公務員法の改正により、令和2年4月から、当館の嘱託職員の身分は会計年度任用職員へと移行しているが、雇用更新に係る考え方は、概ね従来の方式を維持することとしている。

また、現在の運営方式（直営とPFI制度の併用）は令和4年度まで（15年間）が事業期間となっていることから、令和5年度以降の運営体制に関しては、利用者・市民へのヒアリング調査、他館の状況調査等を踏まえながら、様々な選択肢（現行方式の継続、指定管理制度の導入、全面的PFI移行、等）を念頭に検討を行っているところである。

【収益基盤と財源について】

開館以降当該水準を大きく逸脱することなく推移していることから、館の運営が安定した状態にあると言える。しかしながら、今後、人口減少や少子高齢化などによる社会構造の変化の中で、財政上の制約が強まるのが想定され、当館においても、事業運営上の本旨に重点を置きながらも、経費縮減と自主財源の獲得に、より一層意を用いる必要があると考えている。

【各方面とのネットワーク形成】

全国規模の劇場・音楽堂の職員を対象にした研修への参加および講師としての参加や、他館からの職員研修の受け入れ、当館自主事業での情報交換会の実施、他館との連携事業の実施など、普段より全国の劇場・音楽堂とのネットワーク強化を目指し運営している。また、当館の事業を通し、本市教育委員会の理解の元、市内小中学校へのアウトリーチ事業の実施や、市内の高等学校の文化部への支援活動、教育大学の協同による事業の実施、音楽大学をはじめとする大学等からのインターンシップの受け入れなど、教育機関とのネットワーク強化にも力を入れ運営している。

【施設面】

施設の維持管理に当たっては、市が事業者を選定したPFI事業者（いわき文化交流パートナーズ）と館スタッフが連携し、中長期の維持管理計画に則り、適切な修繕・維持管理を実施している。

個別管理計画に関しては、新たな事業運営体制の決定後にすみやかに策定に着手し、令和2年度内の作成を目指すこととしている。